

# 各委員会視察報告

平成二十八年七月から八月に実施した各委員会の調査視察の概要を報告します。

## 観光経済常任委員会

### 《北海道帯広市》

#### 十勝バイオマス産業都市構想について

地域産業政策の「フードバレーとかち」は①農林漁業を成長する産業にする、②食の価値を創出する、③十勝の魅力を売り込むことを柱としており、帯広市では価値共創プロジェクトをつくり、「稼ぐ力」をテーマに「住むなら十勝・働くなら十勝」を行っていました。その成果もあり人口減少が抑制され、さらには増加傾向もあるということでした。また、人材育成では十勝人チャレンジ支援事業として、調査・研究へ補助金を支給したり、十勝で働く素晴らしさを教育現場で取り入れたりしていました。



帯広市役所にて

ており、バイオマス事業での自治体の役割は①コンサルティング機能、②情報収集と事業支援、③産学官連携、④管外へのPRで、主役は民間事業者という説明を受けました。周辺町村が元気になることが、市の活性化にもなるという考えが印象的でした。

今後の農畜産業の発展のため、特に人材の育成や自治体の役割が大変参考になりました。

### 《北海道石狩市》

合併し、市が縦長なこ

とから地区により食文化が異なり、北海道では珍しく古くからの神社や文化が引き継がれていました。また、石狩市は鮭で有名ですが、畑作物も豊富で、特に長芋は定評があるということでした。このような豊富な食材、固有の文化・歴史など、すべての観光資源を「石狩の宝」として発見し磨くことで地域が潤うことを目指すのが、観光計画の基本理念でした。

この特産品を主に、ヤブーを利用した通販サイトの開設で、生産者が出品しやすくなったとのことでした。古文書をもとに再現した「寒塩引」は高値にもかかわらず入手困難なことから、購買意欲を高めていました。

当市も観光資源が豊富にあるので、これらを磨きいかにPRするか、また新たな資源を発掘するかを多角的に考えていくことが必要であると再確認しました。

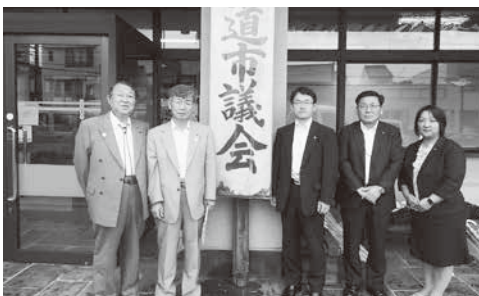
## 民生福祉常任委員会

### 《広島県尾道市》

#### おのみち幸齢プロジェクトについて

尾道市では、高齢者が住みなれた地域で健康で生き生きと安心して暮らせるまちの実現を政策課題に掲げ、健康づくりや生きがいづくり等の特色ある事業を関係各課が連携して取り組む「おのみち幸齢プロジェクト」を実施しています。尾道市の平成二十六年三月末の高齢化率は三二・六％と国の二五・一％を大きく上回っており、特に南部の向島、因島、瀬戸田及び内陸の御調地区の高齢化が著しく、その対応については一刻の猶予もない状況にありました。急速な高齢化の進展に危機感を抱き、「超高齢社会」という言葉の持つマイナスイメージから脱却し、二〇二〇年東京オリンピックの開催年をターゲットとして、高齢者がまちづくり・地域づくりの主役となっているような活力あふれる都市、歳を重ねることに幸せを感じられる「幸齢社会」が実現することを目指し、「高齢者の生きがいづくり」「健康づくり（介護予防）」「安

心に暮らすための環境づくり」の三本の柱を全庁的なテーマとしています。高齢者が児童と一緒に給食を食べたり、授業で交流することにより、孤独感・孤食の解消・生きがい創出を図るふれあい給食事業、高齢者が住み慣れた地域で憩いと交流の機会を創出するため、地域住民や団体が主体となって設置・運営する身近な高齢者の居場所（ばんこ）の整備に要する費用に対し補助金を交付する等さまざまな事業を実施しており、事業名や内容も大変工夫を凝らしていました。



尾道市役所にて

年から小学校と健康推進課が連携し、小学五、六年生の児童と、赤ちゃんと保護者が触れ合う「赤ちゃん登校日」を実施しています。

人間関係が希薄な現代において、人とのかわりを結ぶ力Ⅱ人間関係力が未熟になってきています。そこで、児童が赤ちゃんとそのお父さん・お母さんと継続的に関わっていく体験を通して、人間関係を築くための基礎を身につけます。授業では赤ちゃんの力を借り、本の読み聞かせやオムツの交換等を行うことで、自らの成長や命の大切さを振り返る機会となり、自分の優しさや人の愛情に気づく等の人間関係力・人格形成に寄与しているとのことでした。赤ちゃんの保護者は子供の将来像や愛情の実感など参加者相互に学び・気づきがあるようです。参加した保護者からは、「自分の子が小学校へ通うイメージが湧いて、成長が楽しみになった」等の感想があり、参加者の九〇％以上が満足しているとのことでした。

### 《鳥取県境港市》

境港市では、平成十八